

## 日本学術会議会長談話

### 金澤一郎元会長に対する弔意

平成18年10月から平成23年6月まで日本学術会議会長を務められた金澤一郎先生が、去る1月20日に逝去されました。

日本学術会議は、設置法である日本学術会議法に関わる二度の重要な改正を経て今日に至っています。2回目の改正は、平成17年に行われ、コ・オブテーションによる会員選考、7部制から3部制への改組、会員の任期制や定年制の導入、連携会員制度や幹事会制度などといった今日の日本学術会議の根幹を成す制度が定まりました。

金澤先生が会長に就任されたのは、この法改正後間もない時期でした。金澤先生は、新しい体制の下で、日本学術会議が日本の科学者コミュニティの代表機関として期待される役割を果たせるよう尽力され、成果を上げられました。中でも、金澤先生のリーダーシップの下で多くの科学者が智恵を絞り、10～20年先の学術及びその政策に関する長期的な考察をまとめた「日本の展望—学術からの提言2010」は、人文・社会科学から生命科学、理学・工学など全ての学術分野から構成される日本学術会議の総合力を生かしたものです。我が国の学術全体を複眼的かつ俯瞰的にとらえたこの提言は、現在でも、学術の大型研究計画をはじめとする学術の将来に関する様々な検討が行われる際に参照されるなど、日本学術会議の活動の指針のひとつとなっています。

また、平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の際には、速やかに会員・連携会員等を集めて緊急集会を開催するとともに、東日本大震災対策委員会を立ち上げて、短期間に多分野にわたる提言などを発表し、社会の重要問題に積極的に取り組む日本学術会議の活動を率先されました。この姿勢は、科学や科学者が、社会のために役割を果たすべきであることを示すものであり、現在の日本学術会議の活動の規範となっています。

さらに、総合科学技術会議の在り方に関する勧告「総合的な科学・技術政策の確立による科学・技術研究の持続的振興に向けて」を取りまとめるなど、政府の科学技術政策にも大きく寄与されました。

日本学術会議は、金澤一郎先生の日本学術会議への多大なご貢献に改めて深く感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

平成28年1月25日

日本学術会議会長 大西 隆